



# 長浜

長浜市田根地区地域づくり協議会

## 国内外の大学と協働、“よそ者”の視点を生かす 地域がやるべきこと・できることは、地域でヤル!



左)ワークショップの開始に合わせ開く「ウェルカムパーティー」 右)「何も無いのが魅力」といわれる田根地区の風景 左下)MIT×田根酒プロジェクトから生まれた日本酒「美田根」 中下)田根のマスコットキャラクター「たねっこ」 右下)「田根シカパーガー」も好評だった「田根・坐・ガーデン」

長浜市田根地区は人口1,600人余り、高齢化率34%、小学校の児童数67人と典型的な過疎の地域。  
設立から10年目、「ようやく芽吹きを待たせ」と語る長浜市田根地区地域づくり協議会の川西章則代表理事に、  
マサチューセッツ工科大学や慶應義塾大学などの学生を“勇気と度胸”で受け入れ、  
地域再生に挑戦してきた奮闘の軌跡を取材した。

### 「過疎」「高齢化」「空き家」「獣害」 田根の悩みは全国共通の課題

田根地区にはどんな課題が？  
田根地区は14の自治会で構成された典型的な過疎のまち。少子高齢化、空き家・空き地問題、獣害など、全国の中山間地に共通する問題に悩まされています。2007年に設立された地域づくり協議会は、「地域のことは地域で解決する」という姿勢で、地域の活性化に取り組んでいます。

### 大学が学びの場を選び10年 よそ者視点でまちづくり提案

大学との交流が活発だそうです。協議会設立とほぼ同時期に、慶應義塾大学で建築・都市設計を教える小林博人教授が、古民家のことで田根を訪ねて来られたのが始まりです。「また来ます」と言うので「どうぞ、いつでも」と軽く返したら、本当に研究室の学生を連れて来られた。しかもマサチューセッツ工科大学(MIT)まで巻き込んで。それからです。両大学の学生が毎年夏に来て、地域の人たちとワークショップをするようになりました。そのうち、日本在住のMIT出身者の同窓会が行われたり、同志社大学、関西学院大学などの学生や社会人で行く

る団体「SoHub」が結成され、田根を舞台にもつくりを通して地域活性化を図る活動を始めたり、どんだん人のつながりが広がっていききました。

なかには、空き家となっていた古民家に住み込み、半年間過ごしたMITの学生もいました。

夏のワークショップでは毎年最後の日に、交流会「田根・坐・ガーデン」を開き、その席で学生が田根の課題解決に向けた提案を発表してくれます。その中から、地域を変える取り組みがいくつも始まりました。

### 獣害を獣害に、空き家は資産 悩みのタネを、希望の田根に

——具体的にどんな取り組みがあるのか、教えてください。



「さくら番場」の整備に参加する小学生たち

高齢化対策では、滋賀県社会福祉事業団と協働し、認知症対応デイサービス「さくら番場」の開設に関わりました。建物の設計は慶大の学生に協力していただきました。  
空き家対策では、大きな古民家を慶大生が改修し、学生の寝泊まりやワークショップの活動拠点として利用し、シンポジウムなどを行う知の拠点「きやんせ」とは、地元の言葉で「いらっしやい」を意味します。今年8月にはここを使った宿泊体験ツアー「週末田根」が実施されました。  
獣害対策では、SoHubのプロジェクトの一つとして始まった、鹿やイノシシの捕獲用の檻やワナの開発が、京都の企業との協働で進んでいます。  
また、地元の食育研究グループの協力を得て、捕獲した鹿肉を加工した「田根シカパーガー」を開発。地元イベントや道の駅などで試験販売し、大変な好評を博しました。今後は協議会中心に鹿肉を保存加工する施設も整備して事業化し、田根の名物として広めていきたいと考えています。  
獣害を獣害に、空き家を資産に、悩みのタネを希望の田根に変えてやろうという意気込みで、これらのプロジェクトに取り組んでいます。

### 田根は屋根のないキャンパス 地域づくりは意識づくり

——大学は田根のどんなところを気に入ったのでしょうか？

「何も無いのが魅力だ」と言っています。宿泊施設もありませんが、自然がある、空き家がある。交流する人がいる。海外の人にとっては初めて触れる日本の生活文化がある。そこが貴重な学びの場になる。田根は屋根のないキャンパスです。

——田根がいわゆる「よそ者」若者との出会いを、うまく生かすことができたのはなぜでしょうか？

勇気と度胸で受け入れること。それしかない。学生の提案は突拍子もないものもあります。それを、切り捨ててしまわず、実行できることは試してみる熱意が大事です。

長浜市田根地区地域づくり協議会  
長浜市池奥町321  
http://tane-shiga-saku.net/

代表理事  
川西 章則氏  
(かわにし・あきりの)

地域の中には、新しい人が入ってくることを嫌う空気はまだ残っています。数年前に、私の家の近所に夫婦が越してきたときにも、「どんな人かわからない」と警戒する声もあった。でも、週末にはお孫さんが来られ久しぶりに集落に子どもたちの声も聞こえたと、本当に元気づけられた。何も無いでいたら集落は消滅するだけ。問題は住民の意識だと思ふ。地域づくりは意識づくりです。  
——今後の抱負をお願いします。  
住民一人ひとりが、地域に愛着と誇りと希望を持ち、自分はこの地域に住んで良かった、これからも住み続けたいという気持ちになれば、それで十分だと思います。その気持ちは持ってもらうように努力していきたい。そのためにも、大学など外の力を借りてでも、最終的には地域が成長し自立しなければならぬと思っています。